JSCA九州 メール版

発行・日本建築構造技術者協会九州支部
粕屋郡志免町別府北４丁目-2-1
TEL 092-623-3363 / FAX 092-623-3364
Web Site：http://jscakyushu.jp/
E－mail：info@jscakyushu-.jp

２０１５年巻頭言

2015 年新年のご挨拶

2015 年 1 月　　JSCA 九州支部長　宮田　俊英

新年あけましておめでとうございます。

福岡県の構造計算適合性判定機関複数化が 26 年の 4 月から九州住宅保証株式会社により運用が開始され、確認申請がスムーズに成って来ていると思われます。

昨年の持ち回り役員会は、7 月 11 日に大分市で行われ JSCA 設立 25 周年の記念イベント（構造デザイン発表会並びにパネルディスカッション）が行われて大いに盛り上がりました。これを受けて構造デザイン発表会を定例化したいという声が上がっています。本年は、総会に合わせて行う事が決まっています。皆様の参加をお願いしたいと思っております。

一昨年より続く職人不足、円安、材料費等の高騰など、入札でも不調が続いております、「アベノミクス」による景気回復は未だ実感するには至りませんが、消費税の 10%のアップは、先送りされたように足元の景気はやや落ち込んでいるようです。ただ、初詣の人は増えて来ていて、デパートの福袋の売り上げも大幅に増やしたようで、やや明るい面も出て来ているようにも感じます。

一昨年の１１月２５日に改正「耐震改修促進法」が施工されました。旅館、病院等の不特定多数の利用する一定規模以上の建物、避難路沿道建物等に耐震診断の義務化と、その結果の発表する事と成っています。　この改正に対応する期間が今年の 3 月末の為、駆け込みの申し込みが多くなっているようです。一般の方々に対して耐震診断の相談窓口を設置致しましたが、相談件数は伸び悩んでいるのが実情です。

また、平成 25 年の総会に於いて承認を頂いた参加型の実験については、「鉄骨梁の横補剛について」と言うテーマで、3 月頃に予備実験を行えるよう準備中です。決まり次第、皆様にはご報告致します。　更に、鉄骨部会の方でも夏頃を目安として、実験が計画されています。楽しい１年になりそうでわくわくしています。

皆様のご意見を頂き、皆で盛り上がる九州支部で有りたいと思います。

最後に今年の皆様の発展とご多幸をお祈りいたします。

新年を迎えて

副支部長　　大塚真裕

新年明けましておめでとうございます。

建設業を取り巻く環境は、震災復興、官民による建設投資の高まりにより大きく改善しつつあります。しかし、一方では相変わらず技能労働者不足という課題を抱えており、ますます生産性の高い設計が望まれています。しかし、どのように施工されるかを知らなければ生産性の高い設計はできません。また、せっかく工夫した設計を行ってもそれが理解できる図面にして発行し、施工者サイドに説明・伝達できなければ何にもなりません。今年、JSCA 九州支部では、「構造設計技術者を対象とした現場監理講習会」と題して、建築現場における工種毎の専門技術・知識、施工技術面での最新技術の取得、等を目的に構造設計者の工事監理能力アップのための講習会を開催する予定です。是非、多くの方にご参加頂き、今後の構造設計に活かして頂きたいと思います。

今年は阪神大震災から 20 年、福岡県西方沖地震から 10 年を迎えます。福岡県の想定では、「警固断層帯」が活動すれば最大震度 7 の揺れを起こす可能性があるとされています。基準は万全ではなく想定外の外力や被害も必ずあることを再度念頭におき、限りある資源を有効に活用しつつ、想定を超えた場合でも少なくとも人命を損傷させるような被害は起こさせないように創り込む、そのような創造性を発揮する設計者をめざして行きましょう。

今年も会員各位のご支援を宜しくお願い致します。

副支部長　　原　英基

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年のＪＳＣＡ法人化 25 周年記念での九州構造デザイン発表会は、ＪＳＣＡ九州の総力が結集されたすばらしい発表会になりました。準備に奔走していただいた運営委員会及び開催地大分地区会の皆さんには心からお礼を申し上げたいと思います。

発表会で再確認できたことは、構造技術者とりわけ若い技術者にとって切磋琢磨する仲間と場を持つことがいかに大切であるかということでした。限られた時間で作品を紹介することに至る過程での経験、そしてその後の反響を受け止めることの経験がいかに濃密であるか。おそらく参加された皆さんが感じられたことではないでしょうか。そこにはＪＳＣＡ九州が進むべき道筋の一つが見えるような気がします。

今年も活発な支部活動を通して、さらに九州の一体感が強まることを期待しています。行政や他団体に対して信頼される組織となることが、我々の職能を広く社会に理解していただくことにつながるものと考えます。

私なりに円滑な支部運営ができるよう努力していきたいと考えていますので、今年もどうぞ

技術委員会

技術委員長

㈱JE 構造設計　　上瀧　邦宏

皆さま、新年明けましておめでとうございます。

昨年の春に開催された講習会「耐震セミナー」で、お集まり頂いたビルオーナーの皆様に「耐震改修法」の改正内容と報告義務を説明し、報告期限からさかのぼると時間も作業するマンパワーにも余裕がないので、早めに動かれることをお勧め致しましたが、昨年の巻頭言で述べた如くやはり行政の対応が遅く、昨年 9 月に一斉に号砲が鳴った感があります。スタート出来た案件は何とか今年の 3 月で一段落するのでしょうが、まだかなりの義務化物件が残っていると予想され、何とか今年の 12 月までに済まさなければなりません。そのため、今年は行政の素早い対応を期待いたします。世の中を眺めると、アベノミクスの続行で方向正は決まりましたが、3 本の矢の中で 2 本目以降はどうも狙い通りには的に当たっていないようです。昨年を表す文字は「税」でしたが、今年と来年もこの文字が尾を引きそうで、そろそろ国民の預貯金に期待した借金財政から本当に抜け出す方向を見つけないといけない時期に来ている気がいたします。私は今年も「技術大国日本」を目指して「若手の育成」に力を入れる気持ちは昨年と同じです。一体、日本はどこへ行くのかなあ。

兎に角みんなで頑張って良い年にしましょう。

地盤系部会

地盤系部会長

清水建設㈱　　佐守　康司

新年明けましておめでとうございます。昨年はＪＳＣＡ九州支部地盤系部会として毎年開催していた講習会の開催も行えず、活動の低調な一年であったと反省しております。平成 27 年の抱負としましては、ワーキンググループ勉強会と、講習会開催を実現させ活発な部会活動を行いたい、加えて地震現象や九州地区で活発な火山活動に関しても知見を広げることを一つのテーマに上げたいと考えております。

平成 27 年は、年末に要緊急安全確認大規模建築物の耐震診断報告の期限もあることから構造設計者の社会的責任が例年にも増して求められる一年であると感じています。今まで以上にスキルアップを目指し一般の方々から頼りにされる「構造設計者」でありたいと思います。最後にＪＳＣＡ会員の皆様のより一層のご活躍と健康をお祈りして、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

設計規準系部会

設計規準系部会長

吉原建築構造計画　　吉原　浩晃

皆様、新年明けましておめでとうございます。
昨年の設計部会においては主立った活動も出来ず、部会としては不本意な一年となってしまいました。
今年は、会員皆様のスキルアップへの協力のため、他部会と共同して、色々な設計勉強会等の開催を企画したいと考えております。
今年も御協力の程、よろしく御願い申し上げます。

コンクリート系部会

コンクリート系部会長

㈱大林組　　伊藤　義弘

新年明けましておめでとうございます。
昨年は、アベノミクスの好況や震災復興への継続的な取り組み等建設需要が高まりを見せましたが、その一方で建設業界の労務不足が深刻化してきた一年でした。
昨年度は、会員皆様の技能研鑽・技術力向上のための講習会として、西日本圧接協同組合との共催で鉄筋先組工法（省力化）が採用されている新青果市場（福岡市）の現場見学会を１１月に開催し、Ｈ２７年３月にボイドスラブの講習会を開催する予定にしております。
本年度は、特に、昨今の労務不足に対する対策として採用されているＰＣａ工法などのＲＣ造の省力化工法関連の勉強会を開催したいと考えております。コンクリート系部会として他の部会と協力し、会員皆様の構造設計者としての技術力アップ、技術研鑽の場を提供していきたいと考えておりますので、会員皆様のご協力をお願い致します。

鉄骨系部会

鉄骨系部会長

鹿島建設㈱　　尾宮　洋一

昨年は馬年で躍進を期待しましたが、消費税増税の影響で景気が冷え込み、建築業界・建築設計もそれほど忙しい状況ではなかったように感じました。福岡では、ソフトバンクの日本一と黒田如水の軍師官兵衛が良い記憶でしょうか。今年は、未（羊）年、のんびりしそうな印象ですが、未は枝葉が茂った様子を表すという事で、忙しくなるかも知れまえせん。

‘15 年は、２月に新日鉄住金の製鉄所見学会から活動を始めます。また、４月には日本鉄鋼連盟鋼構造研究ネットワーク九州地区の活動として、九州のファブ+ＪＳＣＡ九州支部会員＋学生の方々の協力を得て、（仮称）九州の建築鉄骨歴史散歩と称するガイドブックを発刊する予定です。

新年度には、鉄骨設計関連の講習会を計画します。さらに、宮崎県鉄構工業会がハンチ付梁の性能実験を計画していますので、公開実験の準備も考えています。青年部やなでしこ会の協力も得られればと思います。

会員各自の問題意識を解決する場として、鉄骨部会に要望があればご意見を下さい。

会員のみなさまも、健康には充分気をつけて、実りある１年を過ごしてください。

木質系部会

木質系部会長

川崎建築構造設計事務所　　川崎　　薫

新年　あけましておめでとうございます。

昨年は低層の公共建築の木造化計画が少しずつ進み始めた様でしたが、今年はより多くの木造建物の計画が出てくるものと予想されます。

又、木造の高層化や CLT（直交集成材）、LVL（単板積層材）等の新建材の登場により、にわかに木造建築に関する紙面が活況を呈する年となりました。

今年もその流れは変わらず、より加速するのでは？と思っています。

多くの雑誌でそれらについての特集が組まれています。

伝統構法においては「伝統的構法の設計法作成および性能検証実験検討委員会」より一昨年の 3 月末にその設計案をまとめて、国交省に提出致しました。今はその法制化を待っている状態です。

全国の伝統構法設計法に期待しておられる多くの方々から、法制化はまだかとの質問が委員長の所に届いている様に聞いております。今年の早い時期に法制化してもらえたら・・・と期待しています。　　（次ページへ続く）

（前ページより続く）
木造部会では数年前より在来軸組工法の設計法について、月 1 回の勉強会で学んでいます。今年前半には許容応力度設計の 4 回目が終了します。
又、昨年は鹿児島に有る山佐木材様の工場にお邪魔しまして現場や最新の木質技術の勉強もしました。
JSCA 鹿児島地区の皆様には大変お世話になりました。
現在の木造部会の勉強会は JSCA 会員に限らず、一般の建築士、住宅会社の設計担当、施工業者等、多種の業種の方々に集まってもらってなかなかにぎやかな会となっています。
今年も会員の皆様、及び建築に携わる多くの方々に有益な情報を発信していきたいと思います。御協力の程よろしくお願い致します。

特殊(PC)系部会

特殊(PC)系部会長

オリエンタル白石㈱　　内山　執樹

明けましておめでとうございます。当部会の活動目的は、プレストレストコンクリート（ＰＣ）構造に関わる建築物やプレストレス力を利用した最新の工法などの情報をいち早く会員の皆様や行政に関わる方々、一般市民の方々に提供し、より良い社会資本の形成に役立つことにあります。そしてこの部会活動を通してプレストレストコンクリート構造のより一層の普及をめざすものであります。
さて、当部会では昨年 10 月に佐賀県唐津市立東唐津小学校屋内運動場棟および長崎県佐世保市において長崎県立新田団地 1-2 棟で耐震補強工法（プレキャスト外付けフレーム工法）の現場見学会を佐賀地区会および長崎地区会との共催で行いました。本年も PC の良さを視覚的に体験していただく為、できるだけ現場見学会を開催していきたいと思っております。是非出席していただきプレストレスコンクリート構造への理解をより一層深めていただきたいと思っております。
新築の建築現場においては、本年も鉄筋工や型枠大工など職人不足が予想されております。建物のプレキャスト化はこの問題の有効な解決手段となります。また職人不足の解消とともに工期の大幅な短縮も可能で、廃材の少ない環境にやさしい構造・工法です。
本年も特殊（ＰＣ系）部会を宜しくお願い申し上げます。

青年部会

青年部会長

㈱構造ＦＡＣＴＯＲＹ　　重松　正幸

新年明けましておめでとうございます。
まず、昨年の JSCA 九州 25 周年記念事業に参加頂いた多くの皆様に御礼申しあげます。大分の会場には当初予定定員の 200 名を大幅に超える方々に来場頂き、素晴らしい記念イベントとなりました。
そして、宮田支部長をはじめ支部幹事・事務局の皆様、大分地区会の皆様、ご意見・ご支援を頂きありがとうございました。
「九州構造デザイン発表会」については、今年も支部主催で継続開催して行く予定との事ですので、青年部からも発表者として参加したいと考えています。
青年部の活動としては、これまで福岡のメンバーを中心に建物見学会を兼ねて各県に足を運んできましたが、残すは宮崎県のみとなりました。
今年は宮崎県を訪問し、宮崎の若手のみなさんと交流できる機会を設けようと思っています。そして、有意義な時間を過ごせることと良い出会いがあることに期待しています。
今年もよろしくお願いいたします。

なでしこ会

なでしこ部会長

清水建設㈱　　浅田　正子

あけましておめでとうございます。
JSCA として 25 周年を経過した昨年、多忙と好景気感のギャップに戸惑いながら暮れて行きました。今年は、収束させていく 1 年となるのか、さらに拡散する年になるのか、今から不安に思いながら新しい年を迎えました。
なでしこ会は今年も引き続き、他団体の女性たちとの交流を始め、外へ向けての活動も行っていきたいと思います。日々の業務や建築士等の試験の合間を縫っての活動で、進捗はゆったりとしたものですが、慌てず焦らず継続していくことが大切ととらえています。
本年もよろしくお願い致します。

耐震改修促進委員会

耐震改修促進委員長

㈲広岡建築事務所　　松下　淳一

皆様、新年あけましておめでとうございます。

「改正耐震改修促進法」により規定されました特定の建築物の耐震診断の実施と報告の第１段階の期限が今年までとされています。一昨年ＪＳＣＡ九州内に義務付け建物を対象とした耐震診断実施等に関する相談窓口を設置し、所有者等からの相談件数は多くはありませんが、石松事務局長の御尽力により電話相談等に対応してきました。

義務付け建物の診断等の実施は九州各地で進められており、その数も少なくないとお聞きしています。期限が近付くにつれ、関連部署の混乱などが予想されます。また、今後の緊急輸送道路の指定などにより期限は先ではあるものの報告義務建物が増えることが想定されます。多方面でのＪＳＣＡ会員の活躍を期待いたします。なお、診断や診断事務所に関する相談などはＪＳＣＡ九州ホームページをご覧いただければと思います。

耐震改修促進委員会では、今までと同様に耐震改修に関する講習会等の情報提供により、耐震化の問題に取り組む予定です。皆様のご協力を今年もどうぞお願い申し上げます。

事業・会員委員会

事業･会員委員長

㈱GEN 設計　　石松　國彦

新年明けましておめでとうございます。

昨年５月の総会以来、事務局を引き継ぎまして半年以上経過しました。

なかなか不慣れな中、九州支部会員の皆様のご協力には大変感謝をしております。

これからも会員の皆様への円滑な情報伝達を行うべく事務局員共々運営をしていきたいと思っておりますので、変わりなきお付き合いをお願いします。

支部活動は支部幹事・地区幹事の方々の発案のもと、昨年７月の九州構造デザイン発表会を含め多くの発表会･講習会･研修会等の開催へ向けての地域活動が行われましたが､今年も､JSCA 九州支部での活動の他、JSCA 本部、他団体との提携など多くの活動が計画されております。これから構造技術者を目指される方も含め､協会としての手助けができるよう協力できればと思っております。活動をご覧になられた方々には新規会員として入会頂ければ幸いです。今後とも、会員の皆様、支部幹事・地区幹事の皆様よろしくお願いします。

編集ホームページ委員会

編集 HP 委員長

㈱日本設計　　今林　光秀

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
昨年はＪＳＣＡ法人化 25 周年記念事業における、5 月の総会記念講演（斎藤公男先生）や 7 月の九州構造デザイン発表会およびパネルディスカッション（金箱会長・許斐氏・尾宮氏）の大成功など、編集ホームページ委員会としてもネタの多い充実した 1 年となりました。
今年は、本部の編集委員会とも協力して機関紙 Structure7 月号において「主集・九州」を作成しようと活動を開始しております。全国の JSCA 会員の皆様に有益となるような編集を目指して、“ ALL KYUSHU ”で支部一丸となって取り組んでいく所存であります。
九州支部の皆様方にもご協力をお願いすることにもあるかと思いますが、何卒、よろしくお願い申し上げます。

地区会報告

北九州地区会幹事

㈱タカシマ建築設計　　高嶌　千年

平成 27 年、新春を迎え謹んでご挨拶を申し上げます。
会員の皆様には、JSCA 北九州地区会の活動に多大なご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

日本経済は、昨年４月に消費税率が８%に引き上げられ、増税による混乱も無く、アベノミクスも予想された程、景気回復に繋がらず結果的に、国内景気は足踏み状態を続けています。これにより衆議院が解散され年の瀬の慌しい選挙となりました。

全体として日本経済が回復に向かう明るい兆しも現れていますが依然として不透明である事から今後の経済回復の見通しは、不安定な状態の継続が懸念されるところです。
「地方創生」により明るい展望が開ける年となることを願っています。

さて昨年は、11 月に、北九州市の産学官が連携した構造系の講演会（第５回）を開催し、講師に金箱会長をお迎えして、「21 世紀の建築と構造デザイン」と題してお話しいただきました。特に木造建築、耐震改修などは、これから注目すべきものであり、旧戸畑区役所の改修について詳しく紹介され、建築を志す学生、若手技術者等、多数の参加を戴き、構造設計者の苦労・楽しさを感じることが出来、大変刺激となり意義深い講演会となりました。

今後もこの様な講演会を継続し、会員相互の連携を密にして、技術の研鑽と若手技術者の育成に努めて参りたいと思います。

ご関係の皆様には、一層のご指導とご支援をお願い申し上げますと共に皆様の益々のご発展を祈念いたします。

佐賀地区会幹事

松尾建設㈱　　香田　昌通

皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年の年末には、「アベノミクス」の是非を問う衆議院の解散総選挙、佐賀県ではその煽りをくって正月を挟んでの知事選挙まで実施され、慌ただしく年の始まりを迎えました。

昨年の消費税増税による個人消費の落込みなど一部懸念材料はあるものの、アベノミクスの継続という選挙結果を踏まえ、今年こそ我々建設業界にとっても明るい展望が開ける年となることを期待したいと思います。

しかし、ここ数年来、職人・資材不足による建設コストの上昇、若手建設技術者の不足などが懸念される一方、昨年は「どぼじょ」「けんせつ小町」など女性技術者にスポットが当たった年ではなかったかと思います。

我々構造設計も魅力ある業界を目指し若手技術者、女性技術者の育成が急務であるとの思いを強くしています。

さて佐賀地区会では昨年、JSCA 会員に加え、佐賀県構造連絡会のメンバーと連携して年 2 回の例会の他、9 月に免震講習会、10 月に耐震補強見学会の開催を行い会員の交流と技術力向上を図るとともに各種団体への講師派遣などを行ってまいりました。（次ページへ続く）

（前ページより続く）
今年は、地区会員の連携、交流を更に活発にし、構造設計者としての技術力向上を目指して各種勉強会、講習会等の機会を増やしていきたいと思います。
また構造デザイン発表会等へも積極的に参加できるように若手技術者の育成及び JSCA への入会勧誘にも力を入れていきたいと考えています。

長崎地区会幹事
堅 設計　　陣川 好高

あけましておめでとうございます。
昨年の長崎地区会は 2 ヶ月に１回の例会や、単独や共催による講習会，見学会を開催し比較的活発な活動が出来たように思われます。今年は昨年同様に例会や講習会を通じて個々のスキルアップと JSCA の活動を建築関係団体に広報していけたらと思っています。
又今年は年初から他団体との交流会や、JSCA 九州支部役員会の長崎開催も決定しており会員全員で準備に取り組むことで、活発な活動につなげていきたいと考えています。
会の活動の主導権を若い世代にスムーズに受け渡して行く事も、重要な課題として取り組んで行きたいと考えています。
個人的には今年は何回目かの年男です。初心に返って、気持ちだけでも若手と同じ気持ちで、仕事や会の活動に取り組んでいきたいと思います。

熊本地区会幹事
(株)岩永組　　赤星 靖

皆様、新年明けましておめでとう御座います。
昨年は、特に東日本で稀にみる風雪災害に見舞われました。また、アベノミクスの効果を実感しないままの解散総選挙と慌ただしい年末でした。建設業界も若い世代にとって魅力ある業界、とりわけ女性の活躍に期待したいところです。さて、昨年１２月５日にＮＴＴファシリティーズ総合研究所様に御協力頂き、「”川内原発の耐震関連記事を紐解く”－建築屋が知っておくべき地震防災に関する知識－」と題したセミナーを開催しました。構造家も専門用語を一般の方にもわかりやすく説明できるプレゼン能力が問われてます。現在、当地区では多くのＪＳＣＡ会員が自ら判定員として、構造計算適合性判定業務を行っております。この６月には当制度も改定されると聞いておりますが、よりよい審査ができるようにＪＳＣＡ会員として尽力していきたい所存です。本年も宜しくお願いします。

大分地区会幹事

㈱日構設計　　高橋　正夫

新年、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

「アベノミクス」の影響で景気も徐々にではありますが、上向き始めていると言われていますが、まだまだ実感がないのは何故でしょうか。また、消費税が８％に上がった影響も受け、木造建物を始め、一般の建築物の新築が増えはじめました。しかしながら、急激な状況の変化に対応できず、材料費の高騰、品不足、施工に携わる職人の不足に悩まされているのが現状です。また、建物の「耐震診断」を促進する国土交通省の指導により、方針が不透明な中、各オーナーからの耐震診断希望の問い合わせが殺到している状況でもあります。

そのような中で、私達は人々が安心して生活できる建物の耐震安全性を確保する専門家として、今まで以上に技術の研鑽に努力することが必要と考えています。

今年は構造規準の改定等、様々な変化の中での対応を迫られる年になりそうです。今後とも、構造技術者の空洞化を防ぐため、若手構造技術者の育成を行うとともに JSCA 会員の相互連携を深め、迎えた新しい年が我々にとって素晴らしい一年になる事を心から祈念申し上げます。

宮崎地区会幹事

㈲森本設計　　森本　啓喜

新年明けましておめでとうございます。

ＪＳＣＡ九州支部の役員・一般会員並びに宮崎地区会会員の皆様方におかれましては、清々しい新年をお迎えのことと謹んでお喜び申し上げます。さて、私達の生活を取り巻く環境の変化は政治・経済情勢・自然災害など様々な問題を抱えており先の見えない状況が続いております。そのような中、建築構造設計業務の携わる私達は、ＪＳＣＡ本部・九州支部・各県の地区会活動を通じて地域に貢献するための義務と責任があるものと考えています。

宮崎地区会は、平成 26 年 12 月末で正会員 21 名・青年部 9 名で運営しておりここ数年は会員の増減はありません。青年部に関しては、先人の皆様に築き上げて頂いた構造設計における建築文化と技術を次世代の継承して頂くために建設業のどの分野でも同様に技術者の高齢化・後継者不足などの解消したく若手構造技術者の育成を目的に平成 24 年に立ち上げました。九州支部内の青年部にも登録していただきましたので新しい情報がたくさん収集できるようになり大変嬉しく有難いことと感じています。青年部の皆さんも大いに刺激され良い結果が出ているようです。

宮崎地区会の主な活動内容は年 4 回程度の技術研修会・及び現場見学会を実施しています。また建築士会・建築士事務所協会との共同開催も実施することで著名な建築家の講演会などに参加して絶えず新しい情報・技術の研鑽を行なっています。平成 27 年の予定は昨年同様に技術研修会・現場見学会のほか夏頃には、宮崎地区会と宮崎県鉄工工業会と共催で鉄骨柱梁接合部の実物大破壊試験を計画しておりますので支部役員及び会員の皆様のご協力をよろしくお願い致します。

本年の皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますように心よりお願い申し上げます。

鹿児島地区会幹事

㈱中村建築事務所　　中村　友直

新年明けましておめでとうございます。

昨年、ＪＳＣＡは法人化２５周年を迎えた年であり、それを記念する事業も開催されました。鹿児島地区も会を挙げて参加させていただきました。

会員一人ひとりが様々なＪＳＣＡの活動に活発に参加することにより、仲間としての意識が高まり、何よりもＪＳＣＡに対する社会の認知度が向上し、それは会員数の拡大にもつながっていくと思っています。

そして消費税増税の導入や昨今の建設関係全般における人材不足などによる建築費の高騰とともに建築構造における環境も変わってきており、構造設計者が果たすべき役割が非常に大きくなってきています。あらゆる面からの情報を吸収し、それらに対応していくためにも支部をはじめとして地区会との連携をとりつつ、昨年以上に積極的に活動に取り組んでいきたいと思っております。

今年もよろしくお願いいたします。

沖縄地区会幹事

㈱国建　　花城　和雄

新年、明けましておめでとうございます。

昨年の漢字一文字は「税」でした。消費税 10%を見据えた 8%増税、税が話題の中心でした。さて当地区会の漢字ですが、その前に昨年を顧みることにしましょう。

昨年、最も印象に残る活動は本部主催の構造デザイン発表会で発表した事です。支部主催の大分県での発表会への参加表明が、発表までの流れの源流でした。その後支部委員の後押しが本流に舵を切ってくれました。

発表は日本の構造設計業界のフロントランナーともいえる技術者も会する中で行いますので、参加へのハードルはかなりのものでしたが、「構造設計を楽しむ」の一点に自信を持ち挑みました。

「地方だから、沖縄だから、ではなく沖縄でもできる」を体現したことは、今後の地区会活動の大きな弾みとなる事でしょう。流れに乗ることで実現したことです。地区会の漢字一文字は、やはり「流」でしょうか。

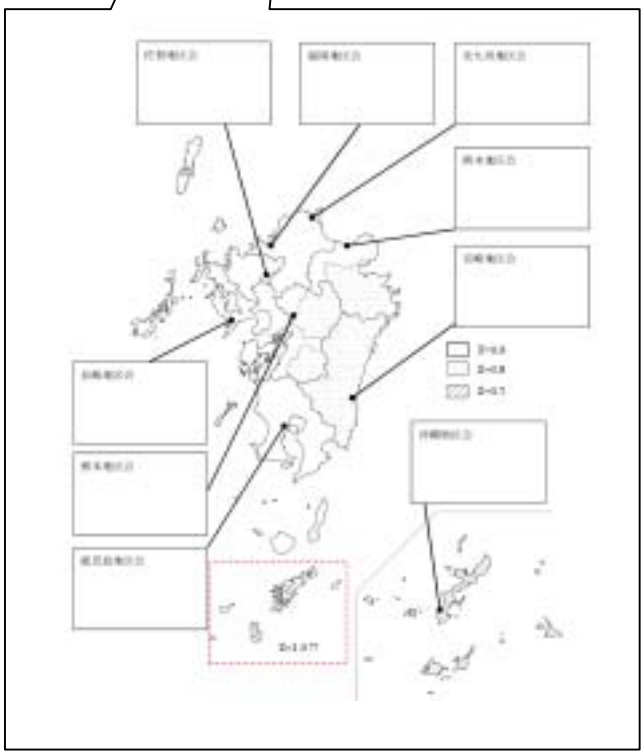
今年は羊年！羊の群れは、先頭 1 頭の行動に従う習性があるそうです。私も地区会活動では先頭を走るフロントランナーとなれる様、頑張る所存です。

新年を迎え皆様方のご多幸、ご健勝をお祈り致します。

～　Structure 7 月号　九州支部特集に取り組んでいます　～

【メンバー】
編集委員長：今林光秀
　編集委員：石井孝幸、福田顕議、中島健太郎
　編集協力：安達亮平、伊藤淳、宮本裕也、向井浩史
アドバイザー（本部編集委員）：西田修治

（一例）



編集後記

明けましておめでとうございます。今年は Structure2015.7 号で JSCA 九州支部が特集されます。編集委員会を中心に紙面構成の作業を進めています。今後は各地区会および担当部会に執筆をお願いすることになりますが、ALL 九州で紙面作りを頑張りましょう。皆様のご協力、ご声援よろしくお願いいたします。

（今林、石井、福田、中島　記）